都市再生整備計画

岸和田駅前地区(第2回変更)

大阪府 岸和田市

平成28年12月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	大阪府	市町村名	岸和田市	地区名	岸和田駅前地区(地方都市リノベーション事業)	面積	36.5 ha
計画期間	平成 26 年度	～	平成 30 年度	交付期間	平成 26 年度	～	平成 30 年度

目標

- ・駅前の公共公益施設建替を契機とした、市の玄関口にふさわしく、人にやさしい魅力あるまちづくり
- ・地域福祉の核となる福祉施設の機能集約による利便性向上とにぎわい創出
- ・市の玄関口にふさわしい安心、快適な歩行者空間の確保

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

- 本市では、平成12年3月、本地区を含む148haにおいて、中心市街地活性化基本計画を策定。当該計画において、歴史的資源・観光集客を目指す岸和田城周辺、新しい居住環境の形成・広域的集客を目指す港緑地区、市の顔となる商業地を目指す岸和田駅西側の商業・業務エリア、そして快適な都心居住の推進と高い生活利便性を目指す岸和田駅東側のエリアを位置づけ、それぞれの機能及び魅力を高めつつ、相互に活性化しあうまちづくりを推進している。
- 平成22年からは、南海岸和田駅を起点とし、岸和田駅西側エリアと岸和田城周辺との回遊性及び観光機能のさらなる増進を図っている。
- 岸和田駅東側に位置する本地区は、平成23年3月策定の「第四次岸和田総合計画」および「都市計画マスタープラン」に基づき、福祉機能をはじめとする公共公益機能の増進を目指している。
- 南海岸和田駅の東側駅前交通広場は、岸和田市内の路線バス及びコミュニティバスの結節点となっており、交通利便性が高い。
- 新市立福祉総合センターのアクセス道路である岸和田駅東停車場線について、歩行者の安全性確保に関する要望書が市長に提出されている。
- 市庁舎についても、老朽化、狭隘化及び耐震性などを考慮し、建替えが必要との結論となり、今後、現福祉センター跡地への建替えを前提に検討を進めることとなった。

課題

- 本市の都市拠点として、エリアごとの機能及び魅力を高め、相互に活性化しあうまちづくりを推進するためには、高い生活利便性を目指す本地区に、市内に点在する類似機能を持つ施設の統廃合を推進し、分散する公共施設の機能の集約・増進を図ることが求められている。
- 地区内にある市民福祉の向上を図るために開設された市立福祉総合センターは、築年数40年を経過し、老朽化が目立ち、施設利用に不具合が生じている。また、災害時における避難場所として指定されており、防災時における市民の安全を守る役割を果たすためにも早急な建替えが必要となっている。
- 福祉の増進を図るために開設された肢体不自由児及び知的障害児のための通園施設及び勤労者・障害者教養文化体育施設も同じく老朽化が進み、建替えが必要となっており、また、総合的な療育の必要性及び施設の機能強化が課題となっている。
- 南海岸和田駅と国道26号を結ぶ岸和田駅東停車場線は、歩行者が福祉総合センター・公園・学校・公共公益施設にアクセスする道路でもあり、歩行者と自転車とが錯綜することによる危険性が指摘されている。
- 生活形態の変化に伴い、地域住民以外の市民が駅周辺の商店街に訪れる必然性が薄れており、新たに来街を即す方策が求められている。

将来ビジョン(中長期)

【第4次岸和田市総合計画】

- 本市の憲法として位置づけられている岸和田市自治基本条例の理念にのっとり、それを実現するための計画である「第4次岸和田市総合計画」のまちづくり目標では、本地区のまちづくりに関連する項目として「海から山までをつなげ、新しい価値と活力を創出する」「みんながみんなを大事にし、見守る」という基本目標が掲げられている。
- 基本目標を実現するため、「多彩な地域特性を活かした景観や拠点が形成されている」「ともに支えあ地域社会になっている」という将来の姿が示されている。

【岸和田市都市計画マスタープラン】

- 本市ではまちづくりのテーマとして「多彩な魅力と活力を備えたまちづくり」が掲げられており、都市活力を持ち続けるために、市内産業の活性化や就業機会の充実、また市内外の人々とのさまざまな交流の活発化が求められており、産業振興・観光振興・農業振興等の施策との一体的な施策展開のもと、多様な分野の産業と多様な交流が展開されるまちを目指している。
- また、その方針に基づき地域別のまちづくり方針も示されており、本地区を含むエリアについては、「都市中核地域」と位置付けられ、「高度に集積された商業・業務及び集住機能の特徴とするまちづくり」を地域の将来像として取り組むとされている。
- その中のまちづくり方針においては、「地域にふさわしい魅力ある拠点づくり」として魅力のある人の集まる空間を創出しにぎわいのあるまちづくりを行うとしており、その方策として、福祉総合センター敷地活用と再開発などの整備がまちづくり方策として取り組むとされている。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
					基準年度		目標年度
ともに支えあ関係が地域にあると感じている市民の割合	%	市民意識調査を行い、ともに支えあ地域社会に関する満足度を確認する。	地域福祉活動の活性化を表す成果	28.5	H24	38.0	H30
高齢者が安心して生活できていると感じている市民の割合	%	市民意識調査を行い、高齢者に対する必要な支援に関する満足度を確認する。	誰もが必要な支援を受けている成果	18.1	H24	27.0	H30
安心して歩道を通行することができると感じている地域住民の割合	%	市民意識調査を行い、地域住民の道路に対する満足度を確認する。	日常生活における交通被害に対する不安感を解消する成果	23	H24	32.0	H30
福祉総合センターの利用者数	人/年	福祉総合センター・いながわ療育園・サンアビリティーズの年間利用者数の合計	福祉施設機能集約による施設利用者の利便性向上	155,095	H24	210,000	H30

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>・地域福祉活動を推進するための拠点である現在の福祉総合センターの施設機能の更新に併せて、健康増進、教養の向上及びレクリエーション機能を複合的に供与する施設である老人福祉センターや、障害者の生きがいがいづりの場を提供する総合的な福祉の拠点及び地域福祉推進の拠点を集約するとともに、機能も増進した新福祉総合センターの施設整備を行うことで、利用者の利便性向上を図り、市街地の活力を創出する。</p>	<p>■基幹事業 地方都市リノベーション推進施設:新 市立福祉総合センター ○関連事業 新 市立福祉総合センター(総合通園センター・市民活動センター) 市立福祉総合センター跡地活用検討 岸和田駅東地区景観まちづくり協議会</p>
<p>・新市立福祉総合センター等へのアクセス道路において、自転車レーンの設置や交差点改良等を実施するとともに、バリアフリー化を推進することで、歩行者の安全性向上を図る。 また、岸和田駅南口に位置する商店街への回遊性向上を図るため、歩行者空間を整備する。</p>	<p>■基幹事業 道路(地方都市リノベーション事業):市道岸和田駅東停車場線 道路(地方都市リノベーション事業):市道岸和田泉光寺線 ○関連事業 府道岸和田港塔原線 歩道整備 すずらん通り 拡幅整備 宮の池公園整備</p>
<p>・</p>	
<p>その他</p>	
<p>【まちづくりの住民参加】 ○岸和田駅東停車場線沿道では、岸和田ファミリーロード・プログラムにおよそ10団体が登録するなど、道路空間を潤いある空間とする取組みが活発に行われている。</p> <p>○岸和田駅東停車場線沿道を中心に活動する「岸和田駅東地区景観まちづくり協議会」では、沿道建築物の景観基準(案)の策定、地元小学校との協働による「花いっぱい推進プロジェクト」、また「クリーン活動」など、建物と道路が調和した美しく魅力あるまちをつくることによって、岸和田の玄関口にふさわしく、住民が快適に生活できるまちづくりを目指した取組みが行われている。</p>	